

多高通信

第201号 令和4年7月27日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

熱戦！球技大会！

7月6日・7日の2日間、多高三大行事のひとつである球技大会が行われました。雨天のあいにくの天候となりましたが、白熱した戦いが繰り広げられました。

各種自優勝チーム

ドッジボール 2-5 キックベースボール 3-4
サッカー 3-3 バドミントン 2-5
ソフトボール 3-7 ボッチャ 2-1

総合成績

優勝 2-5
準優勝 3-3
第3位 3-4



今年のクラスTシャツも個性豊かです！



■球技大会実行委員長

3年4組 佐々木 優太(利府中出身)

今年の球技大会は、2日間とも予定通りできたことが良かったです。事前準備の段階で、特に大きな問題もなく、前日こそ会場準備を行えなかったものの、当日は協力して仕事をこなすことができました。これは、実行委員と担当してくださった部活動の方々、先生方が協力してできたことなので、本当に感謝しています。そして、球技大会実行委員会のみなさんは資料作りなども含めて、お疲れ様でした。ありがとうございました！

これから、多高祭・体育祭と行事が続いていきますが、三大行事を盛り上げ、楽しみたいと思います。

自然災害共同研究 釧路湿原巡検

6月30日から7月2日の3日間、北海道釧路湖陵高等学校との共同研究として釧路湿原巡検が行われ、災害科学科1年3名の生徒が参加しました。釧路湿原巡検は、北海道釧路湖陵高等学校がSSH地域巡検として位置付けているものであり、北海道を

代表する自然環境のもとで環境保全を目的とした環境調査の手法を学び、環境科学における科学的な探究手法を身に付けていることを目的としています。また、本校独自に温根内ビジターセンターや猛禽類医学研究所、釧路市動物園を訪問することで、シマフクロウをはじめとした北海道固有の動物について、その形態的特徴や寒冷地における環境適応などを学び、課題研究や理科学習における自然環境の保全に関連した展開の一助とするものです。



■1年7組 遠藤 彩吏(多賀城二中出身)

釧路湖陵高校の生徒の皆さんと一緒に活動したことが、森林班と沢班に分かれて、湿原や隣接する森林での生物調査を行いました。私は森林班の活動に参加して、隣り合わせにある自然林と人工林でも生息している昆虫の違いが見られ、環境の変化を表現する指標として用いることができました。

最終日に訪れた温根内ビジターセンターでは、湿原に設置された木道を散策しながら、釧路湿原の自然や歴史について学び、湿原が動植物の生育環境のためであるだけでなく、水の循環や地球温暖化の抑制にも貢献するなど、私たちの生活に深く結びついていることを学びました。最後に訪れた、環境省釧路湿原野生生物保護センター・猛禽類医学研究所における講話では、自動車や列車と衝突することで治療を必要とする大型猛禽類(オオワシやシマフクロウなど)を保護し、野生復帰を目標として治療・リハビリを行っている現場を見ることができました。

今回の巡検で学んだことをしっかりと今後の学習活動に活かしていきたいです。

SS野外実習1 浦戸巡検

7月15日と16日の2日間、災害科学科1年生が浦戸諸島で巡検を行いました。一日目は、国立研究



開発法人海洋研究開発機構の海域地震火山部門、上席研究員の田村芳彦様を講師として招き、塩竈市浦戸諸島でフィールドワークを行いました。地学班は野々島の焼島(やきしま)の詳細な岩相記載と堆積構造

の推定に取り組みました。大塚層に見られる砂岩・泥岩の粒度変化を追いかけ、日本列島の成立以前のこの地域でどんな変動が生じたかを考察しました。

2日目は、東日本大震災の時に桂島で避難所運営などに尽力された、浦戸自主航路運営協議会理事長・内海春雄様を招き、お話をいただきました。島での被災だからこそ苦労したこと・工夫したことだけでなく、島の親密なコミュニティだからこそ実現できたことなど、実際の体験に基づくリアルな言葉で教えていただきました。



2学年 進路講演会

7月5日に、ベネッセコーポレーション東北支社より横田麻夏様をお呼びして、進路実現に向けての講演を行いました。2年生で意識しておきたい内容を分かりやすく説明していただきました。



「身につけたい学習サイクル」の大きく3つの項目に分けてお話をいただきました。これから夏休みを迎える2年生にとって、有意義な時間となりました。